

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2771100894		
法人名	医療法人 河崎病院		
事業所名	グループホーム大阪緑ヶ丘		
所在地	大阪府岸和田市神須屋町662-2		
自己評価作成日	平成 22年 6月 1日	評価結果市町村受理日	平成 22年 8月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771100894&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 7月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな環境の下、医療・福祉両面での体制が整っています。
職員は利用者一人ひとりの体調、思いを観察、一人ひとりの生活を築いています。
利用者・職員共に明るく、生き活きと暮らしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年地域に貢献している医療法人が運営するグループホームです。自然豊かな敷地に老人保健施設と併設しており、医療と福祉の連携は利用者の安心・安全な生活はもちろん、家族にも安心してもらっています。四季折々の花が咲き乱れる自然の景観に囲まれ、フロアや各部屋からは東西南北の各方向に雄大な自然風景が大きく広がり、ホーム全体が穏やかでゆったりとした雰囲気です。
「人格を尊重し、地域・家族と連携し利用者を支えていくこと」を理念に掲げ、一人ひとりの生活を大切に支援が実践されています。暮らしぶりを写真入りで利用者個別に家族に送るなどの工夫は家族との信頼関係に繋がっています。管理者は全国認知症グループホーム協会の役員として、先駆的・先導的な役割を果たしながらサービス向上に努めています。「利用者の表情が私たちの自慢です」との職員の言葉にサービスの質の高さを感じることができるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族、地域の方々、職員が連携し、利用者の暮らしを支えていくことを理念に明記している。 職員全員が共有、日々の中で話し合い、実践につながる様努力している。	「人格を尊重し、地域・家族と連携し、一人ひとりの生活を大切にして支援していく」ことを理念にして実践しています。理念はフロアに掲示しています。職員は理念を理解し、毎日のケアの中で各自が工夫して実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	町会に参加し、配布される町会だよりや回覧板を利用者の方々を読んでいいる。 イベントや招待を受けた行事に参加している。	町会に参加し、回覧板は利用者も読んでサインしています。町内のイベントにも参加し、寺の『花まつり』では子どもたちとのふれあいもありました。お茶会や習字等、地域のボランティアの方に来てもらっています。中学生の体験学習も受け入れています。利用者との外食等は、トイレの使用等で気を使うことが多くありましたが、地域との連携を深める取り組みの成果で、最近はお店の方や来客の暖かい目を感じ、外出がしやすい環境になってきています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの問い合わせに応じたり、訪問を受け入れている。 必要に応じて、アドバイスや紹介もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況報告、取り組みの報告をしている。そこで頂いた情報・アドバイスはたいへん参考になっている。	民生委員、家族代表、市職員、介護相談員の参加メンバーで、2カ月に1回開催しています。利用者の生活や運営状況など報告し、意見交換を行っています。欠席者には会議録を送付しています。今後は家族にも見てもらえる工夫をしていく考えです。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者の訪問時、実態やケアサービスの取り組みを話して、情報の共有を計っている。又、認定更新時の担当者へは、利用者の暮らしぶり、ニーズを伝え、連携を深めている。	運営推進会議終了後、ホームの見学をしてもらっています。食事を利用者と一緒に食べてもらうこともあります。問題が起きた場合等は、市に相談できる体制ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの気分や状態をキャッチし、安全面に配慮し、自由な暮らしを支えるようにしている。 職員は、申し送りやミーティングの場で情報を共有し、ケアの振り返りをしている。	身体拘束防止マニュアルを作成し、毎月身体拘束廃止委員会を開催しています。ホームの入り口は、鍵は開錠されており、自由に出入りできる状態です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受け、内容を伝達周知を図っている。 職員のケアも含め職場環境を整え、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、必要が応じた時、支援出来る様にしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族が納得されるまで、十分な説明を行い、理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者の気持ちをキャッチし、個別に話す時を作る。 介護相談員の訪問(1回/月)の折、利用者の要望を聞いて頂く。 意見箱を設置し、家族からの要望を募っている。	毎月、利用者の暮らしがわかる写真入りのお便りを一人ひとり作り、家族に送っています。面会時には家族とのコミュニケーションを大切に、状態の変化等の報告時には記録に残しています。家族にアンケートをとり、パーベキュー実施の希望を実現に繋げました。家族の希望で介護記録の開示をしたケースもあります。介護計画送付時、家族の希望を聞かせてもらう用紙を同封することになりました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見交換の場を作り、管理者からの最善の方策とアドバイスを参考にしている。	毎月の会議を職員の意見交換の場に行っています。時には業務終了後、外のお店で食事をしながら会議を持つことがあります。職員が和気あいあいと自由に意見が言える機会になっています。個人面談も頻繁に行われ、現場責任者と職員間の「報・連・相(報告・連絡・相談)」は良好です。職員は、上司に関心をもってもらっていると実感して感謝しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作り、チームワーク作りに努めている。 職員個々の能力・個性に応じた勤務体制を作り、希望を受け入れ、実績を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は充実している。 その際の職員配置も出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会、大阪認知症高齢者グループホーム協議会、岸和田市介護保険事業者連絡会に加入し、ネットワークが出来ている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いきなりサービスの導入をするのではなく、体験入所の時間を作り、本人様の様子、お気持ちを伺う。そして、入所されてからは、個別の関わりに努め、安心された生活を築く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを細やかにし、安心され、要望に添う様努めている。話しやすい環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では、まず利用者が環境になじまれる様に関わり、徐々に必要な支援・アドバイスを行っていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は「共に過ごす」という意識を持ち、利用者の安心と安定感を生み出す様、相互関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携・協力を頂きながら、和やかな関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問を歓迎し、電話や手紙を頂き、交流への支援をしている。	馴染みの友人と家族と一緒に訪ねてくる利用者がいます。年賀状や電話で馴染みの関係を継続するべく支援しています。昔話を聞くことで、これまでの人生を心に留めて、職員間でケアを共有しています。だんじり会館に行ったり、だんじり祭りのビデオを見るときは、利用者は特に生き活きた表情を見せてくれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を理解し、共に暮らしを楽しめる様、支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても経過を見守り、家族とも交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いに関心を持ち、把握に努めている。常に意見を出し合っ、本人の視点に立って取り組んでいる。	暮らし情報シートを作り、家族にも協力してもらって、一人ひとりの暮らし方、希望や意向を把握しています。シートには年代ごとの生活歴を書く項目もあり、今までの生活をより知ることができます。「きづきノート」には、日常の利用者との関わりの中で気づいたことを書き、職員間で共有してカンファレンスでも話し合っています。また、利用者の中には、日誌をつけている方もあり、その中には日々の思いや行事、食事の感想が綴られ、利用者の深い思いや意向を知ることができます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らし情報シートに記録。 職員全員が共有し、日々の中で家族や本人から知り得た情報も記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々暮らしの中で気づき・変化は書きとめ、カンファレンスの場で話し合っている。一人ひとりの出来る力を活かした生活を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、反映している。 職員間では毎月カンファレンスをし、意見交換をしている。</p>	<p>利用者や家族の思い・希望を反映した介護計画を作成しています。支援経過も丁寧に記録されています。家族の希望があれば記録をみてもらっています。モニタリングは担当職員が行い、毎月のカンファレンスで話し合っています。更新の基本は6ヵ月毎ですが、状態に変化があったときは、随時見直しを行います。</p>	<p>ホームでは最近、家族と共に作る介護計画書を目指して、計画書を更新する際に、書面で家族の意向を聞く取り組みを始めています。これまで以上に家族の意見を活かし、利用者・家族・職員と共に作る介護計画へと前進することが期待されます。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録は職員全員が毎日確認、情報を共有しながら実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の希望を優先し、地域や法人内の連携協力があり、柔軟な支援に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>民生委員やボランティアの協力あり。外出や趣味活動を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時には普段の様子や変化を伝え、医療機関との連携を図っている。	利用者や家族の意向を尊重して、かかりつけ医への受診をしている利用者はいますが、ほとんどは同法人の医療機関をかかりつけ医として選択し、往診を受けています。併設の老人保健施設の看護師が兼務で配置され、健康面での支援にあたっています。夜間の緊急対応も併設施設と連携がとれる体制で、利用者・家族・職員が安心できています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっている。看護師による体調観察、体調変化時への対応が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、医療機関に情報提供、本人・家族の負担の軽減を図っている。そして、病院関係者と連携をとり、本人・家族の希望に添って、退院計画を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「重度化した場合における対応に係る指針」を整備している。</p> <p>家族・医師との連携をとり、最善の支援に取り組んでいる。</p>	<p>「看取りに関する指針」を作成し、終末期支援を実施する方針となっており、状態が急変した場合にはその都度、家族やかかりつけ医と話し合いながら対応しています。ホームで終末期支援を行ったケースもあります。</p>	<p>看護師が配置され、健康面への支援体制はできています。今後は更に介護職員にもできる緊急時対応の研修を実施し、より安心・安全なケアの実現を目指してはいかがでしょうか。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを整備している。</p> <p>看護師より、指導を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策の手順書、緊急連絡体制、火災報知器、スプリンクラー整備が整っている。</p> <p>利用者と共に避難訓練実施。</p> <p>災害時に備えて、非常食の保管もしている。</p>	<p>防災避難訓練は年2回実施しています。他市での火災を機会に、マニュアルの見直しを行い、利用者にも避難方法の訓練を実施しました。災害発生に備えて、非常食と水を用意しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時は、本人の気持ちを大切に、プライバシーを損ねない様に言葉かけをしている。 職員は情報の守秘義務について、十分理解している。	利用者のプライバシーを損ねるような言動はなく、職員は穏やかな対応をしています。個人情報保護に関する規程を作成し、職員採用時には誓約書をとっています。	今後は、日常ケアの中でのプライバシーに関する配慮について研修を実施し、更なるサービスの質の向上につなげていくことが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望に添って、日々の暮らしに必要な援助をしている。 又、表情を観察、気持ちをキャッチしながら好みを把握する様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースに添い、状態に合わせて柔軟な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを見守り、アドバイスが必要な時は、さりげなく援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に準備、片付けをしている。 職員も一緒に食事し、希望があれば外食もしている。	メインの食事は併設施設で作製、ご飯、汁物はホームで作っています。菜園でとれた野菜を使って1品加えることもあります。職員も一緒に食事し、和気あいあいとした楽しい食事の時間となっています。外食に出かけたり、おやつを一緒に作ったり、食事を楽しむ配慮に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、体調や好みの把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。 気分を損なわぬ様に、声かけ・支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な方には、排泄パターンを把握。プライバシーに配慮しながら援助している。	排泄チェック表で、利用者の排泄パターンを把握し、自立行為を優先しながら見守り、一人ひとりに必要な介助を行っています。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者には、日中部屋にポータブルトイレを置かない配慮もしています。洗濯はいつでもできるため、紙パンツは必要以上使わない意向で排泄への支援に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操毎日実施。 排便状況観察。便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴実施している。 希望が言えない利用者には、職員が配慮の上実施している。	基本は入浴したいときに入ってもらよう努めています。毎日入りたい利用者には希望に応じる体制です。広く明るい浴室で、入浴を楽しんでもらっています。入浴を好まれない方には無理強いせず対応をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安定な精神状況がある時は、傍に寄り添い、どの方も安心して休まれる様に関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬内容は利用者個々のファイルに明記。全職員に周知している。 本人の状態や変化等、主治医に報告。服薬調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりできる力を活かして、役割を決め、張り合いのある生活を築いている。 好みに応じ、自由な楽しみのある生活を個別に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、喫茶店や近所のお寺に出かけたりしている。家族と共に外出される事も多く、季節的な外出支援も行っている。	散歩は日常的に出かけています。法人の広い敷地内を自由に散歩したり、近所の喫茶店や本屋に行くなど、外に出かける機会を作っています。月1回の外食も利用者は楽しみにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かる必要のある方は職員の下で管理、必要に応じて支援している。 家族には預り金明細を毎月報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じ、協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けは利用者と共に考えて、一緒にしている。 明るく、穏やかな雰囲気作りをしている。	明るく広い開放的な共有スペースには、様々な所にソファを置き、利用者は好きな場所で思い思いにくつろいでいます。開放感のある大きな窓からは四季の移り変わりを感じることができます。ベランダには草花を植え、水やりは利用者の役割です。習字等の作品を飾り、達成感を味わってもらうようにしています。感染症予防のために、清掃、消毒など、衛生面への取り組みを継続して行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を考えて、くつろげる場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込み、好みに応じた落ち着いた居室へ配慮している。 利用者自身で花を活けたり、写真を飾ったりされている。	ベッドはホームの備え付けですが、利用者は使い慣れた家具を置き、安心できる居室になっています。各居室は明るく、自然が眺められる居室の作りになっています。趣味の絵画の作品や家族の写真を飾り居心地よく生活できるように家族の協力を得ながら支援しています。利用者の表情から、職員が日々支援する質の高さが伺えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの状況観察を常に行っている。</p> <p>安全を見守り、利用者が安心される生活へ支援している。</p>		